**リオデジャネイロ政治・経済（２０１４年１０月）**

1. **政治・社会**

（１）政治

①総選挙結果：１０月はルセーフ大統領が再選を果たした大統領選（５日と２６日にそれぞれ第一回投票，決選投票を実施）の他，各州において州知事，上院議員，連邦下院議員，州議会議員を選出する総選挙が行われたところ，リオデジャネイロ，ミナスジェライス，エスピリトサント州における州知事選，上院議員選の結果及び得票率は以下の通り（全て有効票における得票率）。

**●リオデジャネイロ州**

【州知事選：第一回投票（１０月５日）】（有効票８２．４５％）

ルイス・フェルナンド・ペザォン州知事（ＰＴ）【決選投票】　　４０．５７％

クリヴェラ前漁業養殖大臣（上院議員）（ＰＲＢ）【決選投票】　２０．２６％

アントニー・ガロチーニョ元州知事（連邦下院議員）（ＰＲ）　　１９．７３％

リンジベルギ・ファリアス上院議員（ＰＴ）　　　　　　　　　　１０．００％

タルシジオ・モッタ候補（ＰＳＯＬ）　　　　　　　　　　　　　　８．９２％

【州知事選：決選投票（１０月２６日）】（有効票８２．６４％）

ルイス・フェルナンド・ペザォン州知事（ＰＴ）【当選】　　　　５５．７８％

クリヴェラ前漁業養殖大臣（上院議員）（ＰＲＢ）　　　　　　　４４．２２％

【上院議員選（１０月５日）】（有効票７６．１８％）

ロマーリオ連邦下院議員（ＰＳＢ）【当選】　　　　　　　　　　６３．４３％

セザル・マイア市議会議員（ＤＥＭ）　　　　　　　　　　　　　２０．５１％

**●ミナスジェライス州**

【州知事選：第一回投票（１０月５日）】（有効票８３．０７％）

フェルナンド・ピメンテル前開発商工大臣（ＰＴ）【当選】　　　５２．９８％

ピメンタ・ダ・ヴェイガ元通信大臣（ＰＳＤＢ）　　　　　　　　４１．８９％

タルシジオ・デルガド候補（ＰＳＢ）　　　　　　　　　　　　　　３．９０％

【上院議員選（１０月５日）】（有効票７３．８２％）

アントニオ・アナスタジア前州知事（ＰＳＤＢ）【当選】　　　　５６．７３％

ジョズエ・アレンカール（ジョズエ・ゴメス）候補（ＰＭＤＢ）　４０．１８％

マルガリダ・ヴィエイラ候補（ＰＳＢ）　　　　　　　　　　　　　２．１４％

**●エスピリトサント州**

【州知事選：第一回投票（１０月５日）】（有効票８８．８１％）

パウロ・アルトゥンギ前州知事（ＰＭＤＢ）【当選】　　　　　　５３．４４％

ジョゼ・レナト・カザグランデ現州知事（ＰＳＢ）　　　　　　　３９．３４％

ロベルト・カルロス州議会議員（ＰＴ）　　　　　　　　　　　　　６．０１％

【上院議員選（１０月５日）】 （有効票７８．１６％）

ロゼ・デ・フレイタス連邦下院議員（ＰＭＤＢ）【当選】　　　　４６．２３％

ネウシマール・フラガ候補（ＰＶ）　　　　　　　　　　　　　　３１．１１％

ジョアン・コゼル候補（ＰＴ）　　　　　　　　　　　　　　　　２０．１６％

②その他報道

ピメンテル・ミナス新州知事の局長人事（６日付，エスタード・デ・ミナス紙）

５日に当選を決めたピメンテル新州知事（ＰＴ）は，既に一部の局長人事を固めている。同新州知事がベロオリゾンテ市長を務めた際に市財政局長を務めたジョゼ・アフォンソ・ビカリョ・ベルトラォン氏を州財政局長に，同じく市長時代に市公共工事・インフラ局長を務めたムリロ・ヴァラダレス氏を交通公共工事局長に，レジナルド・ロペス連邦下院議員（ＰＴ）を教育局長に，ピメンテル新州知事の選挙公約を監修したマルコ・アウレリオ・クロッコ教授（ミナスジェライス連邦大学教授）を企画運営局長に，それぞれ任命する可能性が高い。また，農業・漁業・水道局長，社会防護局長，環境局長のポストはＰＭＤＢに，観光局長，スポーツ局長のポストはＰＣｄｏＢにそれぞれ提供される見込みとなっている。また，州議会のの全７７議席の内州知事陣営が有するのは２５議席のみとなっているため，議会運営のためにはＰＳＤＢとの交渉も必要となる。

アルトゥンギ・エスピリトサント州新州知事，自身の再選を否定（７日付，ア・ガゼッタ紙）

アルトゥンギ新州知事（ＰＭＤＢ）は取材を受け，次期州知事選挙（２０１８年）に自身は立候補せず，次期政権では州運営の軌道修正を行い，かつバトンタッチを行うためのリーダーを選ぶ旨述べた。

③新州知事略歴：

|  |
| --- |
| **ルイス・フェルナンド・デ・ソウザ（Luiz Fernando de Souza）リオ州知事****通称：ペザオン（Pezão）**１．生年月日１９５５年３月２９日　ピライー市（リオ州南部）出身２．学　　歴エスタシオ・デ・サ（Estácio de Sá）大学卒（経済・経営学）３．職　　歴：１９８４年～１９８８年　　　ピライー市議会議員１９８６年～１９８８年　　　ニロテイシェイラ・カンポス・リオ州議会議員事務局長１９９２年～１９９６年　　　ピライー市議会議員１９９３年～１９９４年　　　ピライー市議会議長１９９６年～２００４年　　　ピライー市長（２期）（１期目は７５％，２期目は８６％の得票率）２００１年～２００５年　　　リオ州市長協会（ＡＰＲＥＭＥＲＪ：９２市を取纏める）会長（２期）２００３年～２００４年　　　市町村全国連盟税務協議会会長２００５年１月　　　　　　　 政治調整副局長（兼官房局長）２００６年　　　　　　　　　　政治調整局長２００７年～２０１０年　　　リオ州副知事(州公共工事局長兼任)２０１１年～２０１４年　　　リオ州副知事２０１４年４月　　　　　　　 カブラル州知事の辞任に伴い，リオ州知事に就任２０１５年１月　　　　　　　 リオ州知事（任期は２０１８年まで）４．その他（１）カブラル前知事政権の副知事として，ルーラ前大統領の文官長であったルセーフ大統領と交渉してきた経緯があり，ルセーフ大統領と親しい間柄にある。（２）ピライー市長時代に，１９９９年ユネスコ保健賞，２０００年ユネスコ教育賞，２０００年ロベルト・マリーニョ基金教育賞，２００４年フォード基金公共管理・市民権賞，２００４年デジタル都市南米賞等，保健，公共管理，教育等の分野で数々の賞を受賞。（３）足のサイズが３２㎝以上と巨大なことから「ペザォン」（Pezão:大きな足）の通称で呼ばれる。（４）家族構成：アナ・ルシア夫人とその前夫との息子２人。 |

|  |
| --- |
| **フェルナンド・ダマッタ・ピメンテル（Fernand Damata Pimentel）****ミナスジェライス州知事**http://ts1.mm.bing.net/th?id=HN.608004929466861770&w=147&h=147&c=7&rs=1&pid=1.7１．生年月日１９５１年３月３１日　ベロオリゾンテ市（ミナスジェライス州）出身２．学　　歴ミナスジェライス州カトリック大学経済学部ミナスジェライス州連邦大学政治学修士３．職　　歴：１９７８年　　　　　　　　　ミナスジェライス州連邦大学経済学部教授ミナスジェライス経済学者協会部長１９９３～２０００年　　　ベロオリゾンテ市財務局長２００１～２００３年　　　ベロオリゾンテ副市長（企画・総務局長を兼務）２００３年４月　　　　　　カストロ市長が健康上の理由で休職，市長昇格２００５～２００８年　　　ベロオリゾンテ市長（２期目）２０１１年１月　　　　　　開発商工大臣２０１４年２月　　　　　　ミナスジェライス州知事選立候補のため，開発商工大臣を辞任２０１４年１０月　　　　　ミナスジェライス州知事選当選２０１５年１月　　　　　　ミナスジェライス州知事（任期は２０１８年まで）４．その他（１）ルセーフ大統領とは，同じベロオリゾンテ市出身であるほか，軍政と闘っていた左翼ゲリラ時代からの旧友（反政府組織の中ではルセーフの指揮下）。今でも非常に親密な関係にあり，ルセーフ大統領の最も信頼する人物の一人。（２）都市問題（交通渋滞改善やスラム街撤去等）の改善や貧困層に対する社会政策等の施政ぶりが評価され，英国の団体「City Mayors」開催の２００５年世界市長評価で８位（南米で最高位）に選出。ベロオリゾンテ市長離任時の支持率は９０％に上る。 |

|  |
| --- |
| **パウロ・アルトゥンギ（Paulo Hartung）エスピリトサント州知事**http://ts3.mm.bing.net/th?id=HN.608035638483618178&w=168&h=154&c=7&rs=1&pid=1.7１．生年月日１９５７年４月２１日　グアスイー市（エスピリトサント州南部）生まれ２．学　　歴エスピリトサント州連邦大学（ＵＦＥＳ）卒（経済学）３．職　　歴：１９８３年～１９８７年　　　エスピリトサント州議会議員１９９１年～１９９４年　　　連邦下院議員１９９３年～１９９６年　　　ヴィトリア市長１９９８年～２００２年　　　上院議員２００３年～２００６年　　　エスピリトサント州知事２００７年～２０１０年　　　エスピリトサント州知事（２期目，２００６年伯州知事選において最も高い７７．２７％の得票率で当選）２０１４年１０月　　　　　　 エスピリトサント州知事に当選２０１５年１月　　　　　　　 エスピリトサント州知事（３期目，任期は２０１８年まで）４．その他（１）ブラジルで当時最年少の州議会議員として初当選（２５歳）。（２）９７年はじめに後継にヴィトリア市長の座を譲り，米国大使館の招聘を受け，米国で実施の公共政策及び政治システムに関する集中プログラムに参加。（３）帰国後９８年には当時フェルナンド・エンリケ・カルドーゾ元大統領に招かれ，ＢＮＤＥＳ地域社会発展部長を務めた。（４）２０１０年，州知事の２期の任期満了後は，経済コンサルタントとして精力的に活動していた。 |

（２）その他新聞記事

【観光】ラパ水道橋を路面電車がテスト走行（２日付オ・グローボ紙）

運行を停止していたリオ市ラパ地区の路面電車は，本年中の（一部区間での）運転再開を目指し８月からテスト走行を行っている。１日には，３年と１ヶ月ぶりにラパ水道橋を走行した。路面電車に係る全区間の路線の敷設が完了するのは２０１５年末の予定。

ミュージアム・オブ・トゥモローの完成目標は来年第一四半期中

（５日付オ・グローボ紙）

　リオ市政府によれば，現在リオ市セントロ・港湾地区に建設中の博物館，「ミュージアム・オブ・トゥモロー」（Museu do Amanha）の進捗状況は７０％で，２０１５年第一四半期中の完成を目指し，現在２４時間体制で工事が進められている。エドゥアルド・パエス市長は，同博物館の完成を３月１日のリオ市制４５０周年記念式典に合わせたい考えを示した。

ブラジルで初のエボラ感染の疑い（１０日付オ・グローボ紙）

８日，パラナ州において発熱し，エボラ感染の疑い有りとの診断を受けたギニア出身の男性（４７歳）は，１０日午前にリオ市北部エヴァンドロ・シャーガス伝染病院へと搬送され検査を受けたが，陰性であった。ブラジルにおいて正式にエボラ感染の疑いありと診断された例はこれが最初である。

地下鉄４号線の掘削機が５ヶ月ぶりに稼働（１７日付オ・グローボ紙）

　イパネマ地区における地下鉄４号線の掘削機を用いた掘削作業は，直上のバラォン・ダ・トッヒ通りにおいて，地面に工事が原因と見られる穴が開いたことにより，点検のため５ヶ月の間中断していたが，１６日になりようやく再開のための準備が始まった。ただし，現時点では掘削機に電源を投入しただけであり，テスト期間を経てからの掘削作業開始となる。

リオ州山間部の山火事により５１５０ヘクタールが焼失

（２１日付オ・グローボ紙）

　リオ州山間部の山林において１４日間続いた山火事は２０日にようやく鎮火された。鎮火作業は１２日の時点から，消防隊およそ６００人の体制で行われた。この火事で焼失した５１５０ヘクタールの内，およそ３分の１は国立公園の敷地であった。

**２．経済**

（１）経済一般

８月のミナス州鉱工業売上高は前年同月比１２．０５％減　　　 　　　 ２０１４／１０／３

　ミナス州工業連盟（FIEMG）による。同州鉱工業売上高は、今年１～８月の累計も８．０９％減で、FIEMGの今年通年の予想は９％減である。しかしながら、総賃金は、８月が前年同月比３％増、今年の累計が３．７９％増（平均賃金は３．８４％増）であり、FIEMGは、ミナス州鉱工業は現在、大量解雇を行う寸前にきていると考えている。

（２）石油・天然ガス・石油化学・バイオ燃料

ペトロブラス・スキャンダルの賄賂の分配詳細が判明 ２０１４／１０／１０

　コスタ元ペトロブラス精製担当役員とユウセフ・ドル換金業者が第１３管区連邦裁判所で行った減刑引き換えの自供による。それによると、ペトロブラスのサプライヤー１３社（東洋エンジニアリングと伯セタル社の合弁である東洋セタルを含む）は談合を行い、入札の参加企業と落札企業を予め決めていた。この際、落札企業は契約額に平均２０％の割増を上乗せしていた。１３社は、ペトロブラスの石油ガス部門担当役員、探査生産部門担当役員、役務部門担当役員、精製部門担当役員、国際部門担当役員へ賄賂を渡し、その金は与党の労働者党（PT）、進歩党（PP）、ブラジル民主運動党（PMDB）及びこれらの党の政治家へ渡っていたとのことである。

検察、ペトロブラスのサプライヤーに減刑引き換えの自白を要請　　 ２０１４／１０／１５

　検察は、ペトロブラスのサプライヤーに対しても、真実を自白すれば、その代わりに減刑を行うことを伝え、東洋セタルを含む数社はそれを受け入れる意向を示した。

連邦会計検査院（TCU）、ペトロブラスのリオ石油化学コンビナート（COMPERJ。下記注１）の工事でも不正を発見 ２０１４／１０／１６

　不正が指摘されているのは、発注金額７６億ドルの契約、１５億ドルの追加契約、そして排水処理場建設の為の３８億ドルの契約に関するもので、全て入札なしで締結されていた。これらはコスタ氏がペトロブラスの精製分野担当役員であった際に起きたもので、受注したのは全てこれまでに名前があがっていた会社である。

注１：リオ石油化学コンビナート（Complexo Petroquímico do Rio de Janeiro-COMPERJ）－イタボライ市（リオ市の北東45km）で建設中。予算が当初の６１億ドルから４７７億ドルへ膨張した。予想操業開始時期は2016年8月。

原油価格の下落、ペトロブラスの投資に影響　　　　　　　 　 　　２０１４／１０／１６

　専門家によると、原油価格が今年２５％下落したことは、ペトロブラスの派生品、つまり燃料の輸入における出費を減少させている一方、油田の開発を妨げかねない。特にプレサル油田については、生産コストが１バレル当たり約６０ドルと非常に高く（ペトロブラスの平均は３３ドル）、インフラの問題も多いことから、投資が遅れたり、案件によっては投資が中止となることも考えられる。ロイヤルティーのみで、特別負担金のない有償譲渡鉱区は経済的に実行可能であろうが、リブラ油田の場合は特別な注意が必要である。１バレル当たりブレント価格が７０ドル以下になれば、実行は不可能と言われている。ペトロブラスは、油井の掘削時間を短縮する等によって操業コストを抑える努力をしている。例えば、昨年、プレサル油田の油井掘削期間は以前の半分の７０日となっていた。しかし、ペトロブラスは、２，２９０億レアルもの負債を抱えていることから、原油価格が下がっても生産量を引き上げ、輸出して利益を上げる必要がある。昨日、１バレル当たりブレント価格終値は、２０１０年１１月以来最低の８３．３ドルであった。要因は、世界経済の減速及び米国産シェール・オイルの生産量が増加したためであった。原油価格の下落により、ペトロブラスの株価は８．７２％低下し、それによってサンパウロ証券取引所主要株価指数（IBOVESPA）も４．８４％下落した。

米国証券取引委員会（ＳＥＣ。下記注２）、ペトロブラス・スキャンダルについての調査を開始

 ２０１４／１０／１８

ペトロブラスがニューヨーク証券取引所に上場しているためであり、同社が米国の外国腐敗行為防止法に違反し、米国の株主に損害を与えていないかを調べることが目的である。

注２：米国証券取引委員会（ＳＥＣ）－米国における株式や公社債等の証券取引を監督、監視する連邦政府の機関

北東製油所（Rnest。旧アブレウ・エ・リマ製油所）建設計画、政府の頭痛の種となる

　　 　 ２０１４／１０／２１

　同建設計画は、ペトロブラスの事業計画に入った２００７年当時は成長加速計画（PAC）の目玉とみなされており、今年末に完成する予定であった。しかし、結局はペトロブラスの汚職スキャンダルの目玉となり、政府の頭痛の種となってしまった。工事は２００９年中頃始まり、故チャベス大統領が約束したベネズエラ石油公社（PDVSA）の４０％出資について、その後４年間、ペトロブラスはベネズエラ政府と交渉したものの、２０１３年ついに断念した。ルセーフ氏が２０１１年に大統領に就任した時、工事の進捗率は３６％で、第１フェーズは２０１２年１２月までに完成し、２０１４年１２月までには第２フェーズの工事も完了する見込みであった。ただし、工事予算は、当初の２４億ドルより、当時既に１３４億ドルへと膨らみ、現在は約２００億ドルと見積もられている。第１フェーズはこの１１月に完成し、日量１１．５万バレルの精製が開始される予定である。また、第２フェーズの工事の完了は２０１５年５月の予定である。

ム－ディーズ、ペトロブラスの投資格付けを、Ｂａａ１よりＢａａ２（投資適格下限（Ｂａａ３）の１つ上）へ下げる 　　　　２０１４／１０／２２

　降格の要因は、ペトロブラスの債務が多いこと、原油価格の低下、そしてレアル安であった。ムーディーズは、ペトロブラスの状況は２０１６年以降にならなければ改善しないと予想している。

（３）鉱物資源

　特になし。

（４）鉄鋼

テルニウム、ブラジル銀行従業員年金組合（Previ）よりウジミナスの普通株の約１０％を購入

　　　２０１４／１０／３

　テルニウム（テキント・グループ）は２日、ブラジル銀行従業員年金組合（Previ）よりウジミナスの普通株の約１０％にあたる５，１４０株を買い取ることで同組合と合意に達したと発表した。これにより、同グループはウジミナスの普通株の約３８％を保有することになり、新日鐵住金（当館注：普通株保有比率は約２９％）を抜いて最大の株主となる（当館注：ただし、テルニウムの協定グループ内での普通株保有比率は約２８％で、新日鐵住金の方がまだ少し多い）。同グループが支払う金額は、１株当たり１２レアル（２日の終値は６．６レアル）で、合計６億１，６７０万レアルである。同グループは、「ウジミナスのポテンシャルを信じており、同社の再建プロジェクトを続行する予定である。今回の増資はそれを裏付けるものである」と述べた。

ウジミナス、新生産担当副社長を任命　　　　　　 　 　　　 　　　　２０１４／１０／２５

　２４日、テルニウム出身のトゥリオ・シポレッチ氏（ウジミナス・クバトン製鉄所の生産担当役員）が協定グループのコンセンサスにて、新生産担当副社長に任命された（同ポストは、これまではホメル・ソウザ暫定社長が兼任していた）。これはテルニウムが協定グループの合意で定められた権利を行使したものである。ただし、トゥリオ・シポレッチ氏の副社長就任も、正式な役員が決定するまでの暫定的なものである。テルニウムは、「シポレッチ氏が副社長に就任しても、テルニウムが既存の権利を放棄することはない」というプレスリリースを出した。

ウジミナス第３四半期の損益は２，４４３万レアルの赤字で、黒字が１年間続いた後、再び赤字に転落 　　 ２０１４／１０／３０

 第３四半期、鉄鋼製品販売量は前年同期比１０．５％減の１４０．１万トン、鉄鉱石販売量は同３２．３％減の１２３．８万トン、純売上高は前年同期比９％減の２９億８００万レアルであった。要因は、レアル安と操業実績が悪いことであったが、今後同社は鉄鉱石の生産コストを５～１０％削減する計画である。これにより、優先株は８．０７％安の５．４７レアル、普通株は５．８２％安の６．１５レアルとなった。前年同期の損益は１億１，４６０万レアルの黒字であった。なお、ウジミナスの監査委員会の委員５名中、二宮正人氏を除く４名（全てブラジル人）は、第３四半期の財務実績を分析するための会合において作成した５ページの意見書の中で、９月２５日の同社経営審議会にてPaulo Penido同審議会議長が議長採決でウジミナスの幹部（社長１名と副社長２名）を解任した行動を非難した。

（５）その他

トランスブラジルBRT（バス・ラピッド・トランジット）自動車道（当館注：リオ市サントスドゥモン国内空港と五輪開催施設の集まるデオドロ地区間32kmを結ぶ）の工事は、４５日後に開始され、２０１６年末までに完成する予定 ２０１４／１０／２

　リオ市工事局が昨日、官報で発表した。ＢＲＴの駅数は計２８となる見込みである。トランスブラジルは第１区間（ダウンタウンからカジュ地区まで）、第２区間（カジュ地区からデオドロ地区まで）に分けられている。

リオ市サントスドゥモン国内空港に、近代化の為、５，８００万レアルが投資される予定

　　　 　　２０１４／１０／１０

大統領府民間航空庁（SAC）が発表した。資金は、駐機場、食事エリアの改修と拡張、そして冷房システムの改善の為に使用される見込みである。駐機場の拡張工事（工費４，０７０万レアル）は、既に昨年３月に開始されており、現在の進捗率は５８．９４％で、２０１５年末に完成する予定である。また、出発ターミナルの中２階に１２店舗、食事エリア、トイレが設置される予定である（工費は９６０万レアルで、工期は８カ月）。また、太陽熱が内部に入り込まないよう、出発ターミナルの天井のガラスをフィルムで覆い、エアコンを増設する予定である（工費は３３０万レアルで、工期は３カ月）。なお、到着ターミナルでもエアコンの設置が計画されているが（予定工費は１，２００万レアル）、建物が歴史遺産に指定されている為、工事の実施には州立文化遺産院（Inapec）の承認が必要となっている。

リオ都市圏の８月の平均所得増加率、国内主要都市圏の中で最高 ２０１４／１０／１２

　ヴァルガス財団ブラジル経済研究所（Ibre）によると、リオ都市圏の８月の平均所得増加率は前年同月比８．６％増と非常に高かった（２位は３．６％増のレシフェで最下位は２．４％減のサルヴァドール）。国内６主要都市圏の平均は２．５％増であったが、リオ都市圏を除くと０．６％増であった。また、８月の失業率も、リオ都市圏が前年同月比３％増と最も低く（次に低かったのは４．２％のベロで、最も高かったのは９．３％のサルヴァドール）。国内６主要都市圏の平均は５％で、リオ都市圏を除くと５．６％であった。要因は、大規模なスポーツ・イベントが今後開催されること、石油ガス部門の拡張、そしてサービスの質の向上であった。(了)